

弁護士の本当の「かっこよさ」

法律事務所職員

林原 優子 (仮名)

何の仕事をされていますか？ と聞かれることは誰しもよくあると思うのだが、この手の質問で、「法律事務所に勤めている」と答えると、相手から「かっこいいね」もしくは「いいね」と言われることが多々ある。だが、そう言われても素直に「そうですね」と返せない私がいる。

**世間の人々が抱く
弁護士のイメージって…**

弁護士とは、なにかトラブルに見舞われたときに出会う人種である。普段の生活を送るにあたり弁護士と出会うことはまずないだろう。よって、人々が抱く弁護士のイメージはテレビがもたらす影響が大きいのだと思う。

少し前の話だが、弁護士から頼まれ、ある信用金庫へ向かった。担当の方に親切に対応していただき、トラブルもなく無事に手続きが終了。あとはお金をもらうだけというときに担当者の方がこう聞いてきた。「先生はあっちこちに調査に行かれたりするのでしょうか。大変ですよ。いま放送している阿部寛の弁護士のドラマを観ていたら、なんだか阿部寛と先生がダブってきちゃって。やはり先生は阿部寛みたいにカッコイイのですか？」びっくりした。苦笑いで「阿部寛よりカッコイイです」という答えを残し、帰途に着いたのだが、阿部寛と比べられてしまう弁護士も大変だなと、少し同情してしまった。

**テレビドラマのような
華やかさはないけれど**

私もこの仕事に就くまでの弁護士のイメージといえば、「頭が良くて高収入」であるとか「正義感溢れるかっこいい人」というテレビドラマで出てく

る弁護士そのものであった。縁あってこの仕事に就くことが決まったとき、「立派なところに就職できたね」と周りの知人に口々に言われ、ちょっと誇らしげな気分になったものだ。

だが、実際に働いてみると、周りの人から言われるほど「いい」ところではないと感じるようになってきた。弁護士事務所だから給料がいいだろうとか、働く環境が良さそうだというのも、あくまでも実態を知らない人がつくったイメージにすぎない。

そして何より弁護士の「かっこいい」場面に出会えることは滅多にない。所内での弁護士は、みな黙々と仕事をこなし、毎日仕事に追われ、そしてとても疲れている。テレビドラマのような華やかさはまったくなく、はっきり言って地味である。

**見えにくく伝わりづらいけれど
弁護士は充分「かっこいい」**

ここまで言ってしまうと、法律事務所に幻滅しているように聞こえるかもしれないが、決してそんなことはない。周りの人が思っているようなかっこよさはないかもしれないが、毎日夜遅くまでデスクに向かって仕事をしているところや、どんな依頼者でも分け隔てなく接している弁護士の姿は、充分「かっこいい」と私は思っている。

とはいえ、私の思う「かっこいい」は、この仕事に就いたから感じられたことであって、なかなか世間には見えにくく、伝わりづらいのであろう。例えば、これから裁判員制度などで司法への関心が高まれば、世間における弁護士のイメージも、きっと今よりは身近なものに感じられるようになるに違いない。

それまでは、弁護士の本当の「かっこよさ」を地味に広めていきたいと思っている。